平成３１年度（令和元年）

佐那河内中学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

小中学校9年間を見通した，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
大島　浩代 （研修主任・2学年主任）	校長：後藤田　育秀　　教頭：倉橋　誠一 教務主任・3年学年主任：岡島　三千代　　国語主任：久米　智宏 1学年主任・数学主任：篠原　貴道

校長

後藤田　育秀　　印

（１）基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	ステップアップテストの結果から，国語科の「言語事項」，「読むこと」は，知識の定着が見られる。数学科の「数と式」「活用」「図形」の領域について成果が見られる。	・自主学習ノート等を活用して，予習・復習をし，基礎・基本的な学習をくり返し行う。 ・読書を通して，言語活動の基礎となる語彙や文章表現を学ぶ。	・全国学力・学習調査，ステップアップテスト，基礎学力テストなどの平均正答率を県平均以上にする。 ・月に5冊以上の本を読ませる。 ・課題の提出率を90％以上にする。	読書カードを提示し，意見交換会ができる機会を作る。また，本に触れやすくなる図書室の環境整備を行う。	・毎朝、基本的内容の小テストを行い，7割以下は，昼休み再テストを行う。 ・個別の質問には対応したが，放課後の質問教室はあまりできなかった。 ・夏休みに全学年，3～5日補充学習を行った。 ・読書記録を点検し，読書冊数の少ない生徒に図書館の本を紹介した。	・スッテプアップテストの結果を県平均と比較すると，1年国語(−2.5%)，数学(+3.7%)，2年国語(±0)，数学(+3.7%)の結果になった。 ・全国学力・学習調査では，県平均と比較すると，国語の「言語についての知識・理解・技能」は(+7.6%)，英語(+4.0%)の結果になった。
課題	学力の個人差が大きい。 受け身的な学習が定着しており，自主的に興味・関心をもって学習を進める姿勢を持たせる必要がある。また，課題に対して粘り強く取り組む姿勢が不足している。	・漢字の読み書きや語句の定着にむけた問題や，基本的な問題にくり返し取り組ませる。また，朝の読書活動をより活性化する。 ・読書記録をつけさせるとともに，機会をとらえて本の紹介をする。 ・発表方法等の指針や授業の約束を明示し，言語環境を整える。 ・「めあて」「振り返り」を位置づける授業を行い，わかりやすい授業を行う。	・単元ごとの小テストを実施し，つまずいている生徒に対して，放課後や昼休みに補充学習を行う。 ・長期休み中に補充学習を行う。 ・読書カードを充実させ，月の目標読書冊数を決めさせる。			

評価	次年度における改善事項
B	・読書記録の点検を定期的に実施し，図書購入の参考にする。また，課題図書を選定し，読後の意見交換により読み取る力を深める。 ・読書記録をもとに，互いに本を紹介する取組（図書紹介，ポップ制作，ビブリオバトル等）を積極的に行い，図書室の環境整備を行う。 ・質問教室を定期的に実施できるように計画をたてる。

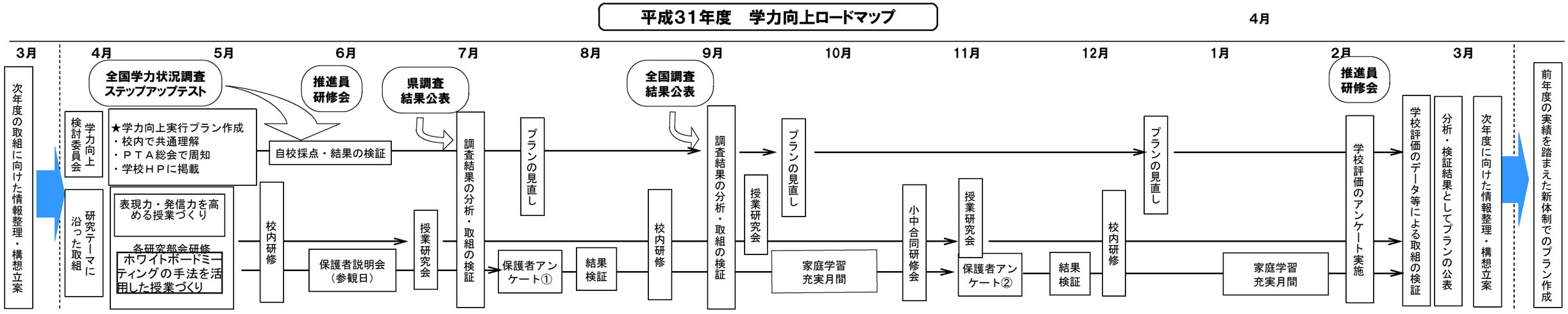
（２）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	素直に自分の考えを発表したり，与えられた課題に意欲的に取り組み，順序立てて課題を解決することができる。	・根拠や理由を明らかにしながら，自分の意見や思いをわかりやすく伝えることができる。 ・課題の解決に向けて，情報収集・整理・分析をし，自分の考えや思いを発表する力が身についている。 ・「英語話し隊」の腕章をつけた先生や生徒に，気軽に話しかけることで，児童生徒が英語に慣れ親しみ，自然に表現できる。	・定期テストにおける記述式の問題の割合を増やしたり，字数を決め，自分の考えをまとめる問題の正答率60％以上をめざす。 ・字数を決めて，自分の考えをまとめる問題や国語の作文試験で60％以上の得点をとる生徒の割合が80％をめざす。	ワークやプリントの記述問題を授業で取り上げ，解答を作る方法を確認しながら，書く練習をする。	・英語の時間に，オーストラリアの各自の文通相手に手紙の返事を書いたり，アメリカやブラジルの子どもたちとスカイプを実施し，自分たちのことを伝えたり，相手に質問したり積極的に行った。 ・1年生の防災学習で，学習した成果や自分たちの考えを発表した。 ・2年のふるさと学習で，よりよい村づくりについて学習したことを子ども議会で，全員が質問し，自分たちが考えた提案書提出した。 ・2，3年生は行事の後に，お礼の手紙を書いて送った。	・パプアニューギニア視察団が来校時，1年生が「おもてなし」接待をした。自分の持っている知識の中で，積極的に話しかけることができた。昨年度から行っている「英語話し隊」に気軽に英語で答える成果が出たと考えられる。 ・授業でくり返し記述式の問題に取り組ませることで，白紙で提出する生徒が減少してきた。
課題	各課題に対して粘り強く取り組むことが苦手な生徒がいる。文章を読み取る力，記述式の問題に対して，自分の考えを文章で表現する力や資料を活用する力をつけることが課題である。	・スピーチや役割演技，討論など，ペアや小グループなど様々な形式で発表させる。 ・記述式の問題を説くポイントを指導し，書くことに慣れさせるとともに，改善ポイントを個別にアドバイスする。 ・中学生による小学生への絵本の読み聞かせを定期的に行う。 ・外国の子どもたちとスカイプやビデオレター，手紙で交流することにより英語の4技能5領域の力をつけさせる。	・学校行事におけるお礼状など，体験したことを文章にし丁寧な文字で書く課題を課す。 ・ホワイトボードミーティングの手法を取り入れ，表現力の育成を図る。 ・月1回以上は，スカイプまたはビデオレター，手紙で交流する。			

評価	次年度における改善事項
A	・スカイプや海外文通を実施し，英語の4技能5領域の力をつけさせる。 ・小学生への絵本の読み聞かせを定期的に行い，相手意識をもって表現を工夫する力を養う。 ・学校行事や各授業で，いろんな形式で発表する機会を設けることで，自分の考えや気持ちを表現する力を養う。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況		具体的目標（目指す子供の姿）	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ	落ち着いた学習態度で，ノーチャイム，2分前着席もできている。また，自主学習ノートや宿題プリントなどの課題にもまじめに取り組むことができ，提出率もよい。	・学習に主体的に取り組み，自らの疑問点を積極的に解決していこうとする意欲を持つことができる。 ・学校や家庭における学習習慣を身につけている。	・家庭学習が 1年生は2時間，2年生は3時間，3年生は4時間確保し，生活習慣アンケートでチェックする。	継続	・英検受検率79%を達成することができた。 ・自主学習ノートを毎日提出させ，学習内容のアドバイスを適宜行った。 ・各教科デジタル教科書等を積極的に活用した。	・1年生において，自主学習ノートを充実することで家庭学習が定着した生徒が増えた。 ・1年間の平均家庭学習時間は，1年生は2.1時間，2年生は2時間，3年生は3時間という結果になった。 ・ICTの活用により，授業への集中力を持続させることができた。
課題	わからない問題や難しい課題において，すぐにあきらめてしまうところがあり，白紙回答にしてしまう生徒もみられる。 また，家庭学習の定着が不十分である。	・ICTやデジタル教科書などを利用し，生徒のレベルに応じて「わかる」喜びを感じさせる。 ・「授業の約束」を明示して授業に集中させ，家庭学習の手引きを活用し自主的に学習できる環境をつくり，根気よく指導する。 ・英検や漢検などの各種検定に積極的にチャレンジさせる。	・2週間に1回，教師による質問教室を開き生徒の疑問を解消させる。 ・よく学習している生徒の取り組みを学年だよりなどで紹介し努力を賞賛する。 ・英検，漢検の受検率80％をめざす。			

評価	次年度における改善事項
B	・英検受検率80%以上を目指す。 ・漢検の受検率が低いので，受検率を上げる。 ・定期的に家庭学習時間のアンケートを行い，家庭学習の定着，テストに向けての学習意欲を高める。 ・宿題の課題の出し方や学習の仕方を「家庭学習のしおり」をもとにアドバイスをする。

平成３１年度　学力向上ロードマップ